

健苗育成で高品質米生産のスタートダッシュ！

～良食味・高品質を確保しつつ収量向上を図りましょう～

昨年のコシヒカリの1等級比率は89.9%、こしいぶきは93.7%となり、品質はやや良～良、収量は良(作況指数106)となりました。平成29年も基本技術を実践し、良食味・高品質米の多収獲安定生産を目指しましょう。

【平成 29 年水稻重点技術対策】 目指す稲姿「生育をコントロールして穂肥を確実にできる稲づくり」

- 苗質の向上・・・移植時期から逆算したは種計画で規格苗を育成する。
- 生育調節の実施・・・移植後 25 日を目安に生育を確認して中干しを開始し、確実に溝切りを行う。

1 育苗作業計画 ～適齢苗で移植する作業計画を立てましょう！～

- 高温登熟を回避するためコシヒカリの移植は5月10日以降とし、規格苗が移植できる育苗計画を立てましょう。
- 規格苗とは、稚苗 2.0 葉、中苗 3.5 葉の苗を指します(図1)。
- 稚苗の育苗期間のめやすはハウス加温出芽で18日程度、中苗は30日程度となります。は種が早くなりすぎないように注意しましょう。
- は種時期が早く、育苗日数が長くなると老化苗となり、本田での初期生育が劣ります。初期生育の低下は、茎数不足による収量低下や、生育の後ずれにつながります。

表1 育苗スケジュールの例(5月15日移植の場合)

育苗方式	浸種	催芽	は種	出芽	緑化	硬化	移植
稚苗(加温出芽ハウス)	4/16～	4/26～	4/28	4/28～	4/30～	5/3～	5/15
稚苗(無加温出芽ハウス)	4/14～	4/24～	4/26	4/26～	4/30～	5/3～	5/15
稚苗(加温出芽露地プール)	4/14～	4/24～	4/26	4/26～	4/28～	5/1～	5/15

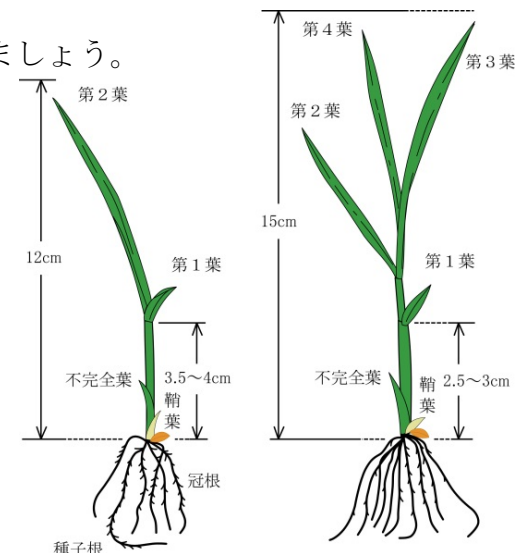


図1 規格苗(左:稚苗、右:中苗)

2 種子予措・は種作業

(1) 種子消毒

- 近年、温湯消毒の普及に伴い、褐条病(葉鞘がすじ状に変色し枯れる)、ばか苗病(苗が異常に徒長)などの発生がみられます。
- 温湯消毒の単独処理では、防除効果が十分に得られない場合があるため、微生物農薬(タフブロック等)との体系防除を実施しましょう。
- 温湯消毒とタフブロックとの体系処理を行う場合は、催芽時に種子浸漬を行います。
- 細菌性病害は種子消毒だけでは十分な効果が得られないことが多いため、カスミン粒剤等の育苗箱処理との体系防除を実施しましょう。

(2) 浸種

- 本年の種子の休眠はコシヒカリ、こしいぶきとも「平年並」と推定されています(図2)。
- 浸種は籾容量の2倍程度の水(種子1kgに対して約3.5リットル)で、発芽揃いを良くするため、浸種開始時から水温を10℃～15℃に保ち、積算水温は100℃をめやすに終了しましょう。
- 浸種初日の水温が10℃より低い場合は発芽不良を起こす可能性があるため注意しましょう。

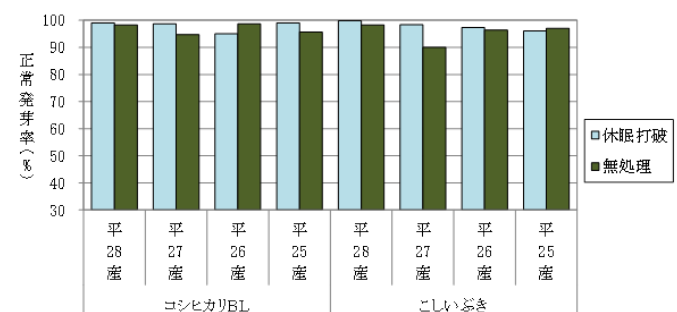


図2 平成25～28年産コシヒカリBL及びこしいぶきの発芽率(作物研究センター)

(3) 催芽

- 温度は30℃、1～2日をめやすに行います。催芽温度が30℃を超えると細菌性病害が発生しやすくなります。
- 鳩胸状態の籾が80%程度になったら催芽を終了します。

(4) は種

- は種量は表2の量を参考にしてください。厚まきは軟弱徒長苗や育苗障害の発生に、また極端な薄まきはマット形成不良の原因となります。

表2 1箱当たりのは種量

	乾籾	催芽籾
稚苗	130～140g	160～175g
中苗	80～100g	100～125g

3 緑化・硬化期の管理

(1) 出芽期

- 稚苗で加温出芽の場合、30℃、2～3日が出芽長が0.5～1.0cmになれば出芽は完了です。中苗の場合は30℃、1～2日が出芽長が0.5cm未満がめやすです。出芽長が長すぎるとその後も徒長しやすく病害にも弱くなるため注意が必要です。

(2) 緑化期

- 出芽直後の苗は、急激な気温の変化や強い光に弱く、こまめな管理が必要です。緑化には弱い光が適しているため被覆資材で遮光するとともに、日中は20～25℃になるように管理します。10℃以下になると伸長が止まるので、低温時は二重被覆するなどして保温管理に努めましょう。晴天時はハウス内温度が急激に高まるため、早めに換気を行いましょう。
- 第1葉の葉鞘の長さが稚苗では3.5～4.0cm、中苗では2.5～3.0cmになったら被覆資材をはがし、緑化を終了します。
- ハウス内が25℃以上の場合や好天で気温が上がりそうな時は、換気を行いヤケ苗の発生を防止しましょう。

(3) 硬化期

- 除覆後は、日中はハウスを開放し、苗を徐々に外気にならしていきます。
- 日中は15～20℃をめやすに管理します。晴天時にはハウス内がすぐに高温になるため早めに換気を行います。
- かん水は、硬化前半は1日1回程度、後半は乾燥程度を見ながら1日2回、午後2時までに行います。移植1週間前からは、夜間もハウスを開放しますが、ムレ苗を防ぐため8℃以下にならないよう管理しましょう。